

切れ目ない支援体制整備

1 平成30年度における主な事業

(1) 幼稚園・保育園・認定こども園・小学校合同連絡会

- ・6月に市内の園長・校長出席のもと開催。
- ・スムーズな移行支援体制づくりに向けてのスケジュールの確認。
- ・中学校区ごとでの顔合わせ、情報交換・今後の交流等についてグループ協議。

(2) 幼稚園・保育園・認定こども園・小学校合同情報交換会

- ・例年各小学校単位で行っていた情報交換を交換会として立ち上げ、スケジュールを半年早め、夏休み中に実施。
- ・4つのブロック毎に小学校を会場に合同開催。
- ・小学校区外の園と実施。校区にある園とは独自の連絡会や日常の交流の中で随時行う。

(3) 就將小学校区幼・保・小連携委託事業

- ・平成28年度より園長・校長連絡会を中心に活動開始。
- ・施設開放、行事交流（学習発表会等）、校長による園での保護者説明会等
- ・教職員の交流授業（学校ごっこ）H30年度より
- ・学校行事に合わせた園児との交流 H30年度より
（遠足のチェックポイント・生活科や社会での校区探検時の給水ポイント等）

(4) 小学校入学後の支援の状況確認

- ・米子市すべての小学校を訪問。
- ・入学後の支援の状況について確認。

(5) T式ひらがな音読支援事業（入学後の支援体制）

- ・29年度モデル校6校で実施（自主的に取り組んだ小学校もあり）
- ・30年度米子市立小学校全校で実施。
- ・1年生対象で特殊音節を含むひらがな読みの流暢性向上が目的。
- ・6、11、2月頃、全ての小学校1年生に検査を行う。
- ・対象児童にiPadでの音読支援を実施。（1日5分で連続21回）

2 成果と課題および今後の方向性

(1) 成果

- ・中学校区の園長・校長が顔合わせできたことによる、園と小学校の連携推進。
- ・情報交換会を合同開催することにより、各園、小学校の負担軽減と効率化。
- ・スケジュールを早めたことにより、来年度の体制づくり等の余裕が生まれる。
- ・入学後の支援状況確認時、学校からの相談に応じる形で、フォローアップができた。
- ・保護者の協力によりiPadによる音読支援が、土日等にも実施できた。

(2) 課題

- ・幼・保・小の相互理解・相互連携をさらに推進する取組。
- ・従前の取り組みと新規の取り組みの整理（連携で活用していくための資料等）。
- ・米子市としてのアプローチカリキュラム、スタートカリキュラム等の計画と検討。
- ・iPad音読支援事業の成果をより客観的に示すこと。
- ・医療的ケアの米子市としてのガイドラインを作成すること。

(3) 今後の方向性

- ・今年度の就將小学校区での取り組みの成果を全市に広げ、推進する。
- ・今年度の情報交換について検証し、さらに効果的な方法を推進する。